

会 告

平成 17 年度農業土木学会講演会の開催について (第 2 報) 	81
「農業土木学会学術基金」の募金について.....	83
平成 17 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について (再)	83
農業土木学会論文集印刷用 (完全版下) 原稿作成について.....	84
農業土木学会論文集投稿料の改定について (再々)	84
投稿原稿の閲読状況が確認できます!	84
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	85
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	85
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します.....	86
新コーナー:「私の勧める本」の原稿を募集しています!	87
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	87
第 12 回欧州農村整備現地研究会の開催について 	88
国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について 	88
シンポジウム「都市と農山村の共生による新しいライフスタイル」の開催について.....	89
学会記事	91

農業土木学会 (本部) 行事の平成 17 年度計画

農業土木学会 (本部) 17 年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中 () を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 8 月 23~26 日	平成 17 年度大会運営委員会	平成 17 年度大会講演会 		岐阜大学	74 巻 1 号

第 73 巻 4 号予定

展望: 中曽根 英雄

小特集: 圃場～流域レベルの水環境管理

冷水温下にある水田灌漑地区での水管理と圃場の水環境: 左村 公他

整備済み水田用排水路系の水生生物の実態と選択的保全対策: 松井 明他

河畔林に着目した水温環境保全: 吉田 貢士他

統合的流域水資源管理における合意形成システムの構築についての検討: 田島 正廣

農畜産業対策を含めた流域水質管理への課題: 久保田富次郎他

技術リポート

北海道支部: 軟弱地盤における用水路基礎工法について - 当別幹線用水路基礎工法見直しと施工結果の検証 - : 多田 大嗣

東北支部: 酸性硫酸塩土壌の発生とその対策: 星 恒昭

関東支部: 田んぼの生きもの再生プロジェクト: 早川千寿子

京都支部: 軟岩地帯の農地開発における土壌熟化対策について: 宇田 毅

中国四国支部: 『龍沢泉の整備』 - 住民主体の農村水辺環境整備 - : 近田 昌樹

九州支部: 有明海再生 研究者に期待すること : 田島 明彦

講座: 生物・社会調査のための統計解析入門: 調査・研究の現場から (その 9) 序列化する (対応分析 (CA), 除歪対応分析 (DCA), 正準対応分析 (CCA)) : 山中 武彦他

小講座: 循環灌漑: 金木 亮一

私のビジョン: 大学での授業 「技術者教育」である前に : 伴 道一

論文をかたる: この論文が出来上がるまで: 加藤 亮

農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 3 月 11 日	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	73巻2号
平成 17 年 3 月 17 日	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認識に向けて	農業工学研究所	"
平成 17 年 9 月 7, 8 日	農村計画研究部会	平成 17 年度第 27 回現地研修集会		豊かな農村資源を未来へ地域が取り組むさまざまな保全のかたち	福井市	73巻2号

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
73 巻 3 号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発		
4 号 圃場～流域レベルの水環境管理		
5 号 技術者資格の国際化対応の現状と課題		
6 号 大会関連 京都支部(仮)	公募なし	平成 17 年 1 月 14 日
7 号 現場における農業土木技術(仮)	平成 16 年 12 月 24 日	平成 17 年 2 月 15 日
8 号 農業土木の防災技術(仮)	平成 17 年 1 月 25 日	平成 17 年 3 月 15 日
9 号 農村における生物多様性, 外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮)	平成 17 年 2 月 25 日	平成 17 年 4 月 15 日
10 号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	平成 17 年 3 月 25 日	平成 17 年 5 月 13 日
11 号	公募なし	
12 号 ブロック編集号	平成 17 年 5 月 25 日	平成 17 年 7 月 15 日
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	平成 17 年 6 月 24 日	平成 17 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 地域資源管理と農業土木政策の展開(仮)	平成 17 年 8 月 25 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号 農村景観法(仮)	平成 17 年 9 月 22 日	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	平成 17 年 10 月 25 日	平成 17 年 12 月 15 日

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 86 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、公募要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、1号に収載の「農業土木学会誌投稿要項」および「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

平成 17 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 2 報）

平成 17 年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 17 年度農業土木学会大会講演会は、平成 17 年 8 月 23 日(火) 24 日(水) 25 日(木) の 3 日間、岐阜市の岐阜大学キャンパスで開催されます。また 26 日(金) には、現地研修会を実施する予定です。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での講演申込みについては、本誌 2005 年 1 月号会告をご覧ください。

なお、講演発表を申込みされた方も、別途、**参加の申込みが必要**です。

ご注意いただきたい点

平成 17 年 6 月 30 日(木) までに参加申込みをいただき 8 月 15 日(月) までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。

6 月 30 日(木) までに予約参加申込みをいただいた方全員に、CD-ROM 版講演要旨集を、大会の約 2 週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は 6 月 30 日(木) までの申込み数だけしか作成しません。締切日以降の予約はできません。

インターネットによる参加の申込みを受け付けます。農業土木学会のホームページをご参照のうえ、ご利用ください。

大会期間中、愛・地球博をはじめ各種のイベントが集中しています。宿泊・交通とも非常に混雑することが予想されます。**早めのお手配**をお勧めします。

1. 開催要領

(1) 開会式：8 月 23 日(火) 9:30~12:00

会 場：岐阜大学小講堂
岐阜市柳戸 1 1

受付開始：8:45~

(2) 交流会：8 月 23 日(火) 18:00~20:00

会 場：ホテルグランヴェール岐山 3F 「鳳凰」の間
岐阜市柳ヶ瀬 6 14

(3) 講演会：8 月 23 日(火)、24 日(水)、25 日(木)

会 場：岐阜大学全学共通教育講義棟
岐阜市柳戸 1 1

詳細は、プログラムとともに 6 月号に掲載する予定です。

(4) 現地研修会：8 月 26 日(金)

A：愛知用水と愛・地球博コース 8:50 JR 岐阜駅南口集合 9:00 出発 10:30 愛知用水(東郷町) 11:30 「愛・地球博」会場(自由見学) 17:00 頃名古屋駅帰着

B：愛知用水と中部国際空港コース 8:50 JR 岐阜駅南口集合 9:00 出発 10:30 県営農村活性化住環境整備事業「佐布里地区」(知多市) 11:30 愛知用水前山ダム(常滑市) 12:00 中部国際空港セントレア 14:00 広域農道「知多半島地区」(常滑市) 15:00 JA あぐりタウン「元気の郷」(大府市) 17:00 頃名古屋駅帰着

*各コースとも 経路は変更になる場合があります。また、申込みが少ないときは中止する場合があります(最少催行人員：約 20 名)。

2. 参加費用

(1) 参加費と内容：次の表をご覧ください。

	予約申込み		当日申込み			
CD-ROM 版講演要旨集	全員配布		当日配布			
大会概要集	当日配布		当日配布			
申込締切日	6 月 30 日(以降は受け付けません)		大会当日			
支払締切日	8 月 15 日		大会当日			
印刷製本版講演要旨集	希望者のみ	なし	なし			
会員種別	一般	学生	一般	学生	一般	学生
参加費	¥10,000	¥8,000	¥5,000	¥3,000	¥7,000	¥5,000

(2) 交流会 一般 ¥6,000 学生 ¥3,000

(3) 現地研修会 A、B コースいずれも ¥5,500 円(昼食代等を含まない)

事前予約制とします。申込み締切は 6 月 30 日(木)。

A コースでは「愛・地球博」入場券代は含みません。昼食は、万博会場にて各自でご対応願います。B コースの昼食は、中部国際空港セントレアにて各自でご対応願います。

3. 申込方法

参加申込みは、ホームページまたはファックスにて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからのお申込みにご協力ください。なお、電話でのお申込み・お問合わせはご遠慮ください。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書(ファックス用)の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してファックスにて速やかにお知らせください。

(1) ホームページによる申込み

農業土木学会のホームページからお入りください。

<http://www.jsidre.or.jp/taikai>

(2) ファックスによるお申込み

下記宛にお申込みください。

近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション
支店気付

農業土木学会受付係

FAX 052 583 5110

4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いに対応いたします。

お振込みの方は 8月15日(月)までに下記の指定銀行口座へお振込みください。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

口座：UFJ銀行 千代田支店 普通口座

口座番号 2565105

近畿日本ツーリスト株式会社

(キンキニッポンツーリストカブシキガイシャ)

6月30日(木)までに参加申込みされ 8月15日(月)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

なお、会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたしますので、ご希望がありましたら、参加申込みの際に連絡事項欄にご記入ください。

お支払いいただいた参加費等の払戻しには、原則として応じかねます。

5. 講演要旨集の事前送付について

6月30日(木)までに参加申込みをされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申込みされた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ 8月15日(月)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計(一般 ¥12,000、学生 ¥10,000)を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨、ご明記ください。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演発表の概要(200字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて申込み者全員にお渡しします。

6. 宿泊等の斡旋

本大会の参加申込み受付業務を委託している近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店が、宿泊手配のお手伝いをしています。宿泊に関するご案内は、すべてホームページ上で行います。また、コンピュータによる自動在庫管理を行いますので、ホームページからの申込みに限らせていただきます。学会ホームページのリンクをご覧ください。

大会期間の前後および大会期間中、名古屋、岐阜近郊では、愛・地球博をはじめ各種のイベントが集中しています。ホテル、旅館などが非常に混み合うことが確実視されていますので、**極力お早め**に手配されることをお勧めします。

7. 昼食

講演会場での昼食時の弁当販売はいたしません。大学内および周辺の食堂、飲食店等をご利用ください。

8. 会場までの交通案内

(1) 開会式・講演会：岐阜大学キャンパス 岐阜市柳戸1-1
JR(新快速)でJR名古屋駅からJR岐阜駅まで18分 450円
名鉄(特急)で名鉄名古屋駅から名鉄岐阜駅まで24分 540円
JR岐阜駅前または名鉄岐阜駅から岐阜バス・岐大キャンパス線

岐阜大学行(終点) 日中10~20分間隔 約30分 310円

(2) 交流会：ホテルグランヴェール岐山 岐阜市柳ヶ瀬6-14
当日は、大学から会場までバスを手配します。

(岐阜大学から岐阜バス・岐大キャンパス線柳ヶ瀬西口下車 約15分)

9. 問合わせ先

(1) 参加申込み・宿泊等に関するお問い合わせ

近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店

農業土木学会受付係 担当：重田、磯崎、林

〒450 0002 名古屋市中村区名駅2-45-19 桑山ビル2F

FAX 052 583 5110

☎052 583 5101

E-mail:shigeta.924563@mb.knt.co.jp

(2) 大会全般に関するお問い合わせ

平成17年度農業土木学会大会運営委員会事務局

〒501 1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部 松本康夫

TEL& FAX 058 293 2875, 2901

E-mail:matsumt@cc.gifu-u.ac.jp

平成 17 年度農業土木学会大会講演会 参加申込書（ファックス用）

締切日：6月30日(木) FAX：052 583 5110

近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店気付農業土木学会受付係 宛

注意：印刷製本版講演要旨集のお申込みは、予約参加申込者のみの取扱いになります。

ふりがな		区分(で囲む)	大学・国・独立行政法人・地方自治体・民間・その他
申込代表者		連絡先名称	
所属		連絡先住所	〒
電話	()		
Fax	()		
E-mail			

No.	ふりがな 参加者氏名	印刷要旨集希望			印刷要旨集なし		交流会		現地研修会	万博入場券	金額
		一般 ¥10,000	学生 ¥8,000	事前送料 ¥500	一般 ¥5,000	学生 ¥3,000	一般 ¥6,000	学生 ¥3,000			
例	とうかい たろう								Aコース	(Aコース 申込者のみ)	¥24,700
	東海 太郎										
お支払い方法 (いずれかにチェック)		お振込み クレジット(会社名 VISA MASTER AMEX DINNERS その他) カード番号()カード名義人() 有効期限(年 月)						合計			
連絡事項		コピーを取り、控えとしてください。									

注意：支払締切日(8月15日)までに入金が行われていない場合は当日申込み扱いとなり、差額をいただくこととなりますのでご注意ください。
現地研修会のAコースをご希望の方のみ、大会運営委員会の一部負担により万博入場券の割引特典が受けられます。万博入場券のみの申込みはできません。

「農業土木学会学術基金」の募金について(再)

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成16年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円以上(何口でも可)

法人会員一口 50,000円以上(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

平成 17 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について(再)

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成17年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申込下さい。

記

1. 援助の対象：農業土木学会の会員（学生会員含む）、または会員によって構成されるグループ

2. 援助方針

(1) 農業土木に関して特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

(2) 平成17年度中（平成17年4月から18年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。な

お、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成17年3月22日

5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。

6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成10年4月1日以降受付の論文から、掲載適となった論文の最終原稿をA4版完全版下で提出いただくこととなっております。

しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が悪いというご意見が多数事務局に寄せられるようになっております。

論文集編集委員会では、平成10年からすでに7年を経ており、現在はもう過度期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、掲載適となった論文の最終A4版完全版下原稿が、投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合には、再提出をお願いすることいたしました。

2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意ください。

3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局が業者を紹介いたします。

農業土木学会論文集投稿料の改定について（再々）

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、閲読料を平成16年度から値下げすることに伴い、投稿料について、平成16年度第1回委員会（16.4.16開催）および第2回委員会（16.7.20開催）で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第189

回理事会の承認を得ました。平成17年4月1日受付の原稿から実施いたします。

	改定後	現行
投稿料	16,000円	20,380円

投稿原稿の閲読状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閱讀状況一覧」、英語の場合は「List of papers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号

の上2桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は、「2004年度」を選択）

PDFファイルの「閱讀状況一覧表」（受付番号，閱讀回数，閱讀依頼日，閱讀返送日）が表示されますので，自分の受付番号から閱讀状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）を設立，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2005年3月末にはVol 3 No. 1 (Special issue: International Year of Rice) が発刊の予定です。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆

様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，無料で配布されます。

なお，PAWEESの第2回 International Awardsの授賞式が，去る10月21日，韓国・安山市の韓国農業基盤公社ホールにおいて開催され，国際賞（6名），優秀論文賞（4名，うち沢田賞1名），優秀読者賞（3名）がそれぞれ授与されました。詳細については，本誌 pp. 61～62 をご覧ください。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは，学会 HR (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は，300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが，現在会員数は270名（2月現在）と微増はしておりますが，いまだ目標会員数には達していません。そのため，編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき，多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering）を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2004年12月末にはVol 2 No 4 が発刊の予定です。

さらに，Vol 2 No 4（12月末発行予定）は，国際コメ年（International year of Rice）に連動した特集号となっております。

我が国においても学術誌の評価に，SCI (Science Citation Index)

の IF (Impact Factor) が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界13カ国から Editor (13名) を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限ります

が、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から新界の権威が就任しています。
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO (Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA

(Japan) , Dr . Ke Sheng CHENQ (Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告：2003年1月のPAWEES設立から2004年12月までに、Editorialを除いて100本の投稿がありました。その国別内訳は、下記のようになっており、多くの国で認知されつつあることを、ご報告いたします。

国別投稿内訳：日本65、韓国17、台湾2、イタリア2、インドネシア2、フィリピン1、パキスタン1、メキシコ1、マレーシア1、スリランカ1、ナイジェリア1、中国2、ブルガリア2、スペイン2

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

73・74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻10号～第74巻5号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙,1500字以内)	原稿締切 (刷上り4ページ厳守)
73巻 10号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	平成17年3月25日	平成17年5月13日
11号	公募なし	
12号 ブロック編集号	平成17年5月25日	平成17年7月15日
74巻 1号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	" 6月24日	" 8月15日
2号	公募なし	
3号 地域資源管理と農業土木政策の展開(仮)	平成17年8月25日	平成17年10月15日
4号 農村景観法(仮)	" 9月22日	" 11月15日
5号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	" 10月25日	" 12月15日

73巻10号テーマ：農業水利施設のストックマネジメント(仮)

ダム、頭首工、開水路、パイプラインなど農業水利施設は、わが国の食料生産を担う重要な施設として、戦後はその整備が進み、現存する施設は再建設費ベースで25兆円という膨大なストックを形成しています。

しかし、これらの中には、老朽化が進行し、これまで担ってきた役割を果たせなくなった施設、また、近々果たせなくなるであろう施設が多数存在します。昨今の厳しい財政事情の下、施設の機能を持続させていくためには、農業水利施設のストック全体を俯瞰した適切な維持管理と更新が不可欠です。そのため、日常点検をはじめとする定期的な機能診断や、施設を長寿命化させライフサイクルコストを低減させる補修・補強技術、そして実際に施設を管理する土地改良区などにおける管理システムの構築などが重要な課題となっています。

そこで、本小特集では、農業水利施設のストックを今後どのように管理していくべきかについて、会員皆様からのご投稿をお待ちします。なお、ハード面のみならず、経済性、意思決定手法などソフト面に関する内容も期待しています。奮ってご応募ください。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、「私の勤める本」のコーナーを新たに設けました。

会員諸兄姉が、ご自分で読まれて非常に参考になった、視野が広がった、技術者として是非ともいろんな方々に読んでいただきたい等々、「私が勤める本」をご紹介いただくコーナーです。

また、自著をご紹介いただいても結構です。下記要領で、奮ってご投稿ください。

記

1. 原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む）

刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）

2. 原稿受付：随時（メールでの投稿も受付けます）

3. 送付先：〒105 0004 東京都港区新橋5丁目34番4号

農業土木学会学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail suido@jsidre.or.jp

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第74巻（平成18年1~12月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3~4枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. **趣 旨** これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出

す文化遺産ともいふべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に）、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. **枚 数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. **締 切** 平成17年9月30日（必着）

5. **審 査** 審査委員会（編集委員と写真家）で12点を選びます。

6. **結果発表** 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。

7. **賞 品** 入選作品1点につき3万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。

8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にも

お勧め下さい。

9. その他 応募写真の裏面にタイトル, 郵便番号, 住所, 氏名, 年齢, 職業, 電話番号, 性別, 写真のテーマ, 撮影場所, 撮影月日, 撮影データ(フィルム, 使用カメラ)を記入して下さい。また, 対象物の名称(固有名詞), 対象物をめぐる歴史的背景等

の説明(いつ, だれが, どうして等)もお寄せ下さい。

原則として, 応募写真は返却いたしません。なお, 入選作の版権は, (社)農業土木学会に属します。

10. 宛先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

第12回欧州農村整備現地研究会の開催について

農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村計画学会と(財)農村開発企画委員会が企画・共催し, 農業土木学会農村計画研究部会が協賛する第12回欧州農村整備現地研究会を開催いたします。今回の研究会では, 世界遺産を持つ地域, 特に文化的遺産を持つ地域およびその周辺地域における, 文化的遺産を活用した地域振興についての調査を予定しております。過去11回の現地研究会には, 国および地方自治体の行政官, 大学および研究機関の研究者, 民間コンサルタントの技術者, 農業団体の役職員など多くの分野の方々に参加され, 有意義な現地研究会であると評価をえております。多数の参加を期待します。

1. 主催 農村計画学会・(財)農村開発企画委員会
2. 協賛 農業土木学会農村計画研究部会
3. テーマ 文化的遺産と地域振興
4. 期間 平成17年9月17日(土)~9月26日(月)の10日間(予定)
5. 訪問国 イタリア, ハンガリー
6. 日程 以下の行程表のとおり(都合により一部変更することがあります)
7. 予定人数 約25名, 他にコーディネーター, 通訳, 添乗員各1名
8. 参加費用 未定
9. 申込方法 参加を希望される方は, 平成17年5月21日(金)

までにファクシミリまたは郵便にて(財)農村開発企画委員会宛に, その旨を御連絡ください。6月下旬までに詳細な旅行計画, 実施要領, その他の必要な書類をお送りいたします。参加が確定した方の最終申込は7月中旬を予定しております。

10. 連絡先 (財)農村開発企画委員会(担当: 落合基継)
住所: 〒104 0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館5階
☎03 3297 5641 FAX 03 3297 5543

行程表

日次	月日(曜)	地名
1	9月17日(土)	成田 ローマ
2	9月18日(日)	ローマ フィレンツェ
3	9月19日(月)	フィレンツェ サンジミニャーノ
4	9月20日(火)	サンジミニャーノ ポルトベネーレ
5	9月21日(水)	ポルトベネーレ ローマ
6	9月22日(木)	ローマ ブダベスト
7	9月23日(金)	ブダベスト トカイ
8	9月24日(土)	トカイ ブダベスト
9	9月25日(日)	ブダベスト (機中泊)
9	9月26日(月)	成田

国際水田・水環境工学会 2005年国際研究集会の開催について

テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主催: PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering (国際水田・水環境工学会)

共催: 日本学術振興会, 農業土木学会, 韓国農工学会, 農工学研究所

共催予定: IWMI, IRRI 他

1. 日時: 2005年9月(水)~8日(木)

2. 場所: 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

3. テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

4. 国際研究集会開催の意義と目的

米は, 世界の約半分の人口が主食としている穀物であり, 波及する経済も考えた場合, 地球で最も重要な作物のひとつといえます。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給, 貧困,

さらに環境などの問題解決においては、水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005年9月に京都において開催される国際研究集会〔持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理〕を主催する国際水田水環境工学会(PAWEES)は2003年1月に設立されました。これは、第3回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し、環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し、その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は、設立以来世界各地の大学、研究機関、行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また、学会が発行している学術誌「水田・水環境(PWE)」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は、内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた、当分野において主導的役割を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに、研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに、その他の諸国の広汎な連携が推進されることも期待されています。

このように、水田・水環境に関連する研究・技術に携わっている方々にとっては非常に意義のある研究集会ですので、ふるってご参加願います。

本事業は独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の助成事業です。

5. 講演発表の募集

1) 研究発表を中心に、下記の3テーマに関するセッションが行われます。

セッション1: 水田の多面的機能

(キーワード: 正負の機能, 外部経済性, 定量化, 政策とのかわり, など)

セッション2: 水田の統合的(参加型含む)水管理と管理技術

(キーワード: 流域管理, 総合評価, 参加型管理, など)

セッション3: 環境・食料問題における水田稲作の役割

(キーワード: エコシステム管理, 食糧自給, 貧困, など)

2) 講演発表を希望する場合は、平成17年4月10日(日)までにアブストラクトを提出する必要があります。Science Committeeによってアブストラクトは審査され、その採否を発表希望者にご連絡いたします。

ポスターセッションはありません。

3) アブストラクトの提出は、Webサイト: www.jsidre.or.jp/pawees2005 から申込用紙をダウンロードして、必要事項を記入し、E-mail: pawees2005@jsidre.or.jp までお願いいたします。

4) アブストラクトは、英250語以内(表題, 所属, 氏名を除く)です。

5) 使用言語は、英語です。

6. 主要なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始: 平成17年1月1日

アブストラクトの提出期限: 平成17年4月10日

原稿採択通知(e-mail): 平成17年4月26日~28日

採択原稿の提出期限: 平成17年7月10日

2) 参加登録:

登録期間: 平成17年1月1日~7月10日(7月10日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ, 研究集会当日に可能)

参加登録費: 10,000円(4月10日以前に登録した場合のみ5,000円)

講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

7. 問合せ先

松野 裕 (PAWEES 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 3 4 4 農業土木会館 3 階 1 号室

E-mail: pawees2005@jsidre.or.jp

シンポジウム「都市と農山村の共生による新しいライフスタイル」の開催について

1960年代以降、急速な産業構造の変革にともなって、国内における食糧生産・人口構成・国民所得等に占める農業の地位は大きな変化を遂げてきました。近年、農業は食糧生産や農村社会の問題としてだけでなく、農業が自然保護や環境問題、農村文化、

国民の憩いの場や教育の場として果たす役割が大変大きいと考えられるようになり、これまで進められてきた食料生産中心の農業・農村政策は見直されようとしています。

このような農業・農村政策の新しい流れは、多くの農村に居住

している人々と、農業生産物と農村の文化や環境を現在享受し、今後享受しようとしている都市住民との相互の協力があるから可能になるのです。たとえば、都市住民との「安全な」食料の需要・供給関係は、生産者と消費者の信頼関係がないところではなり立ちません。また、わが国の人々は古くから、水田にみえる黄金色の穂波に心をいやされ、青々と茂る山野の美しさに心を奪われてきました。農業や農村と都市はこのように深いつながりをもっています。農村と都市の連携によって、わが国の食料生産と風土や伝統文化を守り、農村と都市の新しいきずなを結ぶために、シンポジウムを企画しました。

1. **主催**：日本学術会議 農業総合科学研究連絡会
共催：日本学術会議 都市・農山漁村パートナーシップ専門委員会
2. **日時**：6月25日(土)午後1時～5時
3. **会場**：名古屋大学 野依記念学術交流館(入場無料)
4. **講演**
「心豊かな里作りによる都市住民との交流」
高橋 幸照氏(水土里ネット立梅用水事務局長)

「食と緑が支える豊かなくらし」

林 綺氏(愛知県農業大学校長)

「森林における様々なライフスタイル」

永田 信氏(東京大学教授・農学部附属演習林長)

「素人たちが再生する山村の暮らしと農林業」

丹羽 健司氏(東海農政局統計部統計管理官, NPO 都市と農山村交流スローライフセンター理事)

コメンテーター

渋谷 祥子氏(横浜国立大学名誉教授, 聖徳大学教授)

山下 興亜氏(中部大学副学長)

中川 昭一郎氏(東京農業大学客員教授, 元日本学術会議会
員・第6部長)

5. 連絡先・問い合わせ先

山内 章 教授：名古屋大学大学院生命農学研究科生物資源学
専攻, 名古屋市千種区不老町1
E-mail: ayama@agr.nagoya-u.ac.jp
☎052 - 789 - 4022